

変動気象にも負けない根張りの良い元気な苗を作しましょう！ 安定収量を確保するために健苗育成による良質茎を早期確保しよう！

1. 播種

(1) 播種日

- ・コシヒカリは登熟初期の過高温による品質低下を避けるため、8月5日以降の出穂を目指しましょう。
- ・コシヒカリの出穂期が8月5日以降となるよう、田植日は5月10日以降とします。
- ・5月10日以降の田植えにあわせて、播種日は4月20日以降にしてください。
- ・高温気象に対するリスク分散や作業分散を図るため、5月20日頃の田植の場合、播種日は5月2日頃がめやすです。

※播種時期が遅いほど気温の上昇により葉令の進みが早くなるため育苗期間を短く計画しましょう。

(2) 播種量 ～ゆっくり丁寧に播種しましょう～

1箱当り乾籾140g以下(催芽籾175g以下)の薄撒き均播に努めましょう。
※五百万石、ゆきみらい等の大粒品種は1割増しで播種してください。



140g播種
(催芽籾で約170g)



(参考)170g播種
(催芽籾で約210g)



(参考)200g播種
(催芽籾で約250g)

(3) 播種前のかん水 (かん水時の弊害)

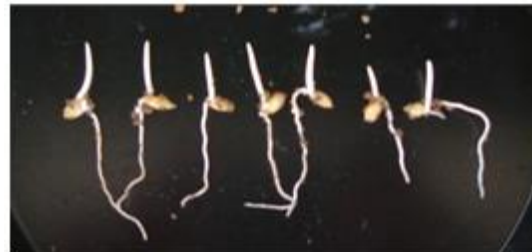
かん水不足	床土乾燥・発芽不揃い・籾の浮き上がり
水切り不足	積み重ねた下段の箱が過湿・酸欠をおこす

2. 育苗ハウスの管理

ハウス内が30℃を超えたら必ず換気！晴天時は急激に温度上昇するので注意！

(1) 播種後～緑化終了期まで：ハウス内温度は(日中)25～30℃、(夜間)15～25℃

【出芽のめやす】



適度(0.5～1cm)



伸ばし過ぎ



育苗ハウスには温度計と定規を用意し、時間を決めて毎日確認するのじゃ!!



熱中症等にも注意!!
こまめな水分補給と休憩も必要なのじゃ。

(2) 緑化終了の判断と苗ヤケ防止：ハウス内温度は(日中)20～25℃、(夜間)15～18℃



茎の長さが3cmになったら育苗シートをとりまします。
※こしいぶき、ゆきみらい、あきだわらは苗丈が伸びづらいので緑化を1日程度長めにして苗丈を確保します。

“高温・高日射により苗ヤケの心配で迷った時は被覆資材をはぎましよう!”

※特に、年数経過により劣化した被覆資材や、ハウス天幕を新品にした年は、苗ヤケに注意!

(3) 硬化期の温度管理と水管理

期間(目安)	12～13日間
管理	①前半はこまめな温度管理、後半は霜や強風に注意し徐々に外気になります。 ②1日1回午前10時頃迄、後半は1日2回昼頃までにかん水しましょう。 ★夕方かん水すると育苗箱の床土温度が下がり、根張りが悪くなります。 午後3時以降のかん水は避けましよう!
温度	日中 …15～20℃ 夜間 …10℃以上

※注意※：プール育苗では気温が高いと水温が上昇して徒長しやすいので、換気に十分留意ましよう。
緑化が終了し、湛水した後は原則として昼夜ともハウスのサイドビニールを開放ましよう。

(4) 田植え前の追肥 (苗の老化防止と田植え後の活着促進)

- ①専用肥料(何れか1資材)…「べんとう肥」360g/10a(18～23箱)を田植え4～5日前に散布まします。または、「くみあい液肥2号」を270g/10a(18～23箱)をかん水。
※くみあい液肥2号は肥料ヤケを防ぐために、追肥は夕方に行い、その後、十分にかん水して下さい。

3. 本田の準備

- (1) 表面排水・・・圃場排水に努め、田を乾かましよう。⇒ 移植後の活着が良くなります!
- (2) 均平化・・・高低差のある圃場は、整地キャリアなどで均平化に努めましよう。
- (3) 畦塗り・・・畦からの漏水を防止ましよう。特に、ネズミ穴に注意!
- (4) 農道・畦畔に除草剤を使用する際は、薬剤の使用基準を守り、丁寧に散布してください。(エコ・5-5運動「肥料・農薬使用基準」を必ず遵守してください。)

4. エコ・5-5栽培 基肥使用基準

(1)【分施肥体系の基肥使用基準】

10a 当たりの上限となる施用量

	越後の輝き 有機50元肥 (N-P-K:10-13-10)	フレーバー ペースト734 (7-3-4)
	コシヒカリ・こしいぶき・こがねもち・五百万石 等	30kg
「わたぼうし」のみ	47kg	67kg

(2)【全量基肥施肥の使用基準】 10a 当たりの上限となる施用量

	越後の輝き 有機50ス・パ・元肥 (12-6-5)	越後の輝き 有機50ス・パ・元肥ロング (12-6-5)
	コシヒカリ・こしいぶき・こがねもち・五百万石 等	47kg (早生品種用)
「わたぼうし」のみ	64kg	—

※冷水がかかる圃場はリン酸を成分量で7kg/10a施用をおすすめまします

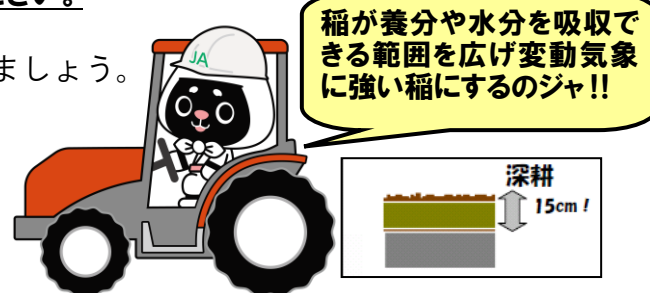
5. 土づくり・耕起

- (1) 耕起では作土深15cmを確保し、根張り改善を図りましょう(回り耕ち、スタブルカルチ等)
- (2) 「完熟発酵ケイフン(みやぎ有機)」で地力アップを図りましょう！
・イセ有機の施用めやす：コシヒカリ3袋(45kg/10a)、こしいぶき5袋(75kg/10a)

◎特に砂質圃場等で地力が低く、例年倒伏が無い圃場では、耕起前に基肥を使用基準量上限まで散布し、さらに「完熟発酵ケイフン(みやぎ有機)」、または、基肥や穂肥に「味好2号」、「フジミペレット731」、「みらい有機831」での補完をしてください。

- (3) ケイ酸質資材の散布で高温に耐えられる稲体にしましょう。

- ① みつパワー：60～120kg/10a
- ② アイアン米スター：60～100kg/10a
- ③ ニュー米スター：30kg/10a
- ④ マルチサポートFe：40～60kg/10a
- ⑤ 農力アップ：60～100kg/10a



※ごま葉枯れ病発生圃場や下葉が枯れ上がる“秋落ち”水田では、特にケイ酸質肥料や含鉄土づくり肥料(みつパワー、マルチサポートFe、農力アップ等)を散布しましょう。

6. 田植え

- (1) 好天日に田植えをし、活着を早めましょう。
- (2) 田植時期…コシヒカリは5月10日以降田植えが、エコ5-5米の要件です。
※減収防止のため5月末までには田植えを終えましょう。
- (3) 栽植密度…コシヒカリ50株/坪(低地力で収量が少なく倒伏しない圃場は60株/坪)
こしいぶき等早生品種60株/坪以上
- (4) 植込本数…3～4本/株になるようツメを調整。※多苗植は根が浅くなるので注意！
- (5) 植付深さ…2～3cm ※深植えすると活着・分けつの発生が遅れるので注意！
- (6) 箱施用剤の施用【長岡地区の全品種(わたぼうしを除く)】

適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
イネドロオウムシ	ゼロカウント粒剤	※150g/箱	床土混和	は種前
イネドロオウムシ フタオビコヤガ			箱上散布	は種時(覆土前)～ 移植当日
ニカメイチュウ イネツトムシ				移植2日前～ 移植当日
イネミズゾウムシ幼虫 イネヒメハモグリバエ				移植当日

※JA育苗センター苗は箱処理済みですので、ご注意ください。

※「高密度は種」の場合の使用量は、50g～100g/箱。(使用時期、適用病害虫等を確認の上、使用して下さい)

お問い合わせ先：なごか営農センター TEL：0120-91-5882
なごか西営農センター TEL：0120-91-5883

【長岡地区のわたぼうし・新之助】

適用害虫名	使用薬剤	使用量	使用方法	使用時期
いもち病 イネドロオウムシ イネミズゾウムシ ウンカ類 ツマグロヨコバエ	GPオリゼリディア 箱粒剤	※150g/箱	育苗箱の 苗の上か ら均一に 散布する。	緑化期～ 移植当日
もみ枯れ細菌苗、内類褐変苗 白葉枯病、穂枯れ(ごま葉枯病) ニカメイチュウ、イナゴ類 イネカラバエ、イセハモグリバエ フタオビコヤガ、イネツトムシ				移植3日前～ 移植当日 (高密度は種の場合は 移植3日前～移植当日)

※JA育苗センター苗は箱処理済みですので、ご注意ください。

※「高密度は種」の場合の使用量は、50g～100g/箱。(使用時期、適用病害虫等を確認の上、使用して下さい)

7. エコ5-5用水田除草剤

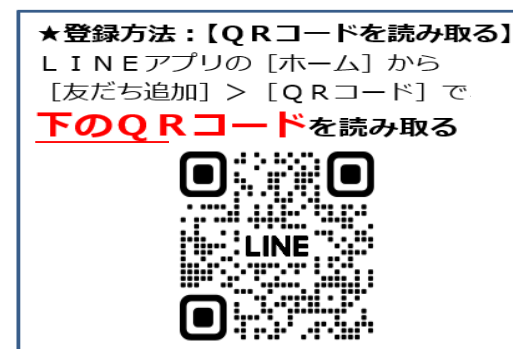
薬剤名		10a当たり 使用量	使用時期(農業登録)
初期剤	ソルネット1キロ粒剤	1kg	移植時～ルエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植前7日まで
	エリジャン	乳剤 300ml ジャンボ 300g	移植直後～ルエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植7日前まで 移植直後～ルエ1葉期まで(但し移植後30日まで)、植代後～移植前7日まで
一発剤	カウンスル	1キロ粒剤 1kg	移植時～ルエ3.5葉期(但し、移植後30日まで)
	エナジー	フロアブル 500ml ジャンボ 400g	

※昨年、刈残しがある圃場は落ち初対策として初期剤を田植え後に散布しましょう。

8. 公式LINEアカウントのお知らせ

「JAえちご中越 なごか地域 営農情報」から最新の営農情報を送信しています。まだ、登録されていない方は、QRコードより登録をお願いいたします。

ご登録はこちらから!!



LINE「友だち登録」待っているのじゃ!!
～米の出荷はJAへよろしくお願いたします～

